

国語科の指導におけるICTの活用について

1. 学習指導要領上の位置付けとICT活用のイメージ(例)
2. ICTを活用した授業事例
 - ・「一人一台端末」活用事例
 - ・その他の活用事例
3. 臨時休業期間中のICT活用事例

1. 学習指導要領上の位置付け

新学習指導要領では、小学校・中学校・高等学校を通じて、国語科におけるICT活用について以下のように規定している。なお、ICT活用はあくまで手段であり、活用に当たっては、育成を目指す資質・能力との関連を明確にすることが重要である。

(小学校の例) 中・高の規定も小と同様

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

2 第2の内容の取扱いについては、次のとおり取り扱うこと。

第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。

参照：小学校学習指導要領(平成29年告示)第2章 第1節 国語

(参考) 上記規定に関する学習指導要領解説の説明

「コンピュータや情報通信ネットワークの活用について示している。情報化社会の進展を見据え、国語科の学習においても、情報収集や情報発信の手段として、インターネットや電子辞書等の活用、コンピュータによる発表資料の作成やプロジェクターによる提示など、コンピュータや情報通信ネットワークを活用する機会を設けることが重要である。」

加えて、いくつかの指導事項や言語活動例では、学習指導要領やその解説でICT活用について明示的に示している。(参考：『教育の情報化に関する手引き(追補版)』(令和2年6月 文部科学省)巻末資料「学習指導要領における教育の情報化に関する主な記述」)

国語科における「学習過程」とICTの活用場面

新学習指導要領では、国語科の指導の改善・充実を図る観点から、〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。 ICTの効果的な活用についても、この学習過程を踏まえて、活用場面を考えることができる。

国語科の学習過程

必ずしも一方向、順序性のある流れではない。

考えられるICT活用場面

以下の各場面は、あくまで本資料として便宜的に挙げたものであり、特定の学習過程と紐づくものでも、固定的に捉えるべきものでもない。

A 話すこと・聞くこと			B 書くこと	C 読むこと
<話すこと>	<聞くこと>	<話し合うこと>		
話題の設定	話題の設定	話題の設定	題材の設定	構造と内容の把握
情報の収集	情報の収集	情報の収集	情報の収集	精査・解釈
内容の検討	構造と内容の把握	内容の検討	内容の検討	考えの形成
構成の検討	精査・解釈	話合いの進め方の検討	構成の検討	
考えの形成	考えの形成	考えの形成	考えの形成	
表現			記述	
共有	共有	共有	推敲	共有
			共有	



情報を収集して整理する場面



自分の考えを深める場面



考えたことを表現・共有する場面



知識・技能の習得を図る場面

学習の見通しをもったり、学習した内容を蓄積したりする場面

場面に応じた国語科におけるICT活用のイメージ(例)

本イメージ(例)の分類は、便宜的なものであり、順序性を示すものではなく、各場面と一対一の関係で示す趣旨のものでもない。

情報を収集して整理する場面

- インターネットを活用して学習課題に関連する情報を調べ、集めた情報を内容に応じて整理する。
- 収集した情報をフォルダに保存し、表計算ソフトなどを活用してデータベース化する。

自分の考えを深める場面

- 自分で考えたことを画面上の付箋に書き出し、その付箋を目的や意図に応じて分類する。
- プレゼンテーションソフト上でスライドを並べ替えるなどして、自分の伝えたいことがより明確に伝わるよう、目的や意図、相手に応じて用いる情報を取捨選択したり、話や文章の構成を考えたりする。
- デジタル教科書上で自分が重要だと考えた箇所に線を引く、友達と比較するなどして、考え直した場合に線を引き直す。

考えたことを表現・共有する場面

- デジタルカメラやカメラ付端末を活用し、スピーチや話合いの様子を録画・再生して自分の話し方を確認したり助言し合ったりする。
- プレゼンテーションソフトを活用して発表資料を作成する。

知識・技能の習得を図る場面

- 古文や漢文等の教材となる動画を視聴して、言葉の響きやリズムに親しむ。
- 書写の指導において、デジタル教科書等を活用して、点画の書き方への理解を深める。

学習の見通しをもったり、学習した内容を蓄積したりする場面

- モデルとなるスピーチの動画を視聴し、学習の見通しをもつ。
- 以降の学習における様々な学習活動において自分の必要に応じて適宜参照できるように、学習した内容を個人のフォルダに蓄積する。

「教育の情報化に関する手引-追補版-」(令和2年6月)では、学校種ごとに、ICTの効果的な活用の具体例を示しているため、参考としていただきたい。(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html)

- 1 . 学習指導要領上の位置付けとICT活用のイメージ(例)
- 2 . ICTを活用した授業事例
 - ・「一人一台端末」活用事例
 - ・その他の活用事例
- 3 . 臨時休業期間中のICT活用事例

事例によっては、実際の事例を基に、内容を一部簡略化したり、応用として考えられる内容を加えたりしている。
また、写真については、事例とは異なる指導事項の授業等のものをイメージとして掲載しているものもある。

「一人一台端末」活用事例

ここでは、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校国語】』（令和2年3月，国立教育政策研究所）（以下，『参考資料』）の事例2を踏まえた授業を取り上げ，一人一台端末活用事例として紹介する。

書く過程を記録し，よりよい文章作成に役立てる

「書くこと」
の学習過程

単元「関心のある事柄について投書を書く」 (第3学年・4時間)

題材の設定

- 関心のある事柄から新聞に投書する題材を決め，自分の意見と根拠を整理する。

情報の収集

- 文章作成ソフトで下書きを入力する。

内容の検討

- グループで下書きを読み合い，分かりにくい部分等についてコメント機能を用いて確認し合う。

構成の検討

- 投書にふさわしい表現について考える。

考えの形成

- 読み手の立場に立って自分の下書きを読み，目的や意図に応じた表現になっているかを確認する。

記述

推敲

- 文章作成ソフトの校閲機能を用いて推敲する。

共有

- 希望者は，清書したデータを投稿する。

(単元終了時) コメントや校閲機能による修正の跡が残っているデータを教師に提出。

中学校 第3学年「B書くこと」

エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確認して，文章全体を整えること。



↑ コメントを踏まえて修正した表現について，友達と確認する生徒

- 文章作成ソフトで文章を書くことで，コメント機能等を用いて助言し合うことができる。
- 文章作成ソフトの校閲機能を用いて推敲することで修正の履歴を残すことができる。教師による評価の信頼性や妥当性の向上にも資する。

以下に、ICTを活用した学習の様子を、文書作成ソフト画面イメージを用いて簡易に解説する(詳細は、『参考資料』を参照)。

(1) コメント機能の使用例

【生徒Pがコメントを書き込んだ下書きの例】

【コメント機能の具体的な使用例】

テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。

先日、いつも通る信号のない横断歩道に近づくと、車がこちらに向かって走ってきた。私は、車が通り過ぎるのを待とうと思い、立ち止まった。すると、その車はゆっくりと止まってくれたのだ。私が会釈をして渡ろうとすると、車を運転していた人は笑顔を返してくれた。

一生道を譲り続けても合計は百歩にもならないという言葉も教えてもらったことがある。私は、笑顔で道を譲ってもらったとき、心が温まった。ちょっとした譲り合いが、私たちの心を温めてくれる。譲り合う気持ちを大切にしてみませんか。

コメント【P1】:いきなり自分の考えが書いてあるので、この考えに賛成しない人は、読むのをやめてしまうかもしれない。最初は自分が経験した出来事から書き始め、物語のように話を進めることで、分かりやすく自分の考えを伝えられるようにしたい。

コメント【P2】:誰の言葉?(山田)

コメント【P3】:誰から?(佐藤)

コメント【P4】:誰から教えてもらったのかが分からないので、学校の先生から教えてもらったと書く。先生に確認して、正確に紹介することで説得力を高めたい。

下書きを読み直し、自分(生徒P)が気付いた点を入力する。

下書きを交流し、生徒Pの文章について友達が気付いた点等を入力する。

入力してくれた友達のコメントを読んで、更に気付いた点等を自分(生徒P)で入力する。



←投稿の準備を進める生徒

- 気付いた点を入力する際は、文章全体をどのように整えたいかを「～が分からない(伝わってこない)。だから～したい(する)。」等のように入力することを指導する。
- 友達の文章にコメントする際は、記名をさせる。コメントの意図を尋ねたり、よりよい表現を互いに助言し合ったりする際に有効である。また、教師が生徒の学習の状況を適切に把握する際にも役立つ。

(2) 校閲機能の使用例

【生徒Pがコメントを書き込んだ下書きの例】

下書きを検討後、校閲機能を用いて推敲、文章を修正する。

テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。

① 先日、下校時にうれしいことがあった。横断歩道に近づくと、車がこちらに向かって走ってきた。私は、車が通り過ぎるのを待っていると、その車はゆっくりと止まってくれたのだ。私が云釈をして渡ろうとすると、車を運転していた人は笑顔を返してくれた。

テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。「一生道を譲り続けたとしても、それでも合計は百歩にも満たない。」^②ならないという中国の古典の言葉を学校の先生から教えてもらったことがある。ちょっと道を譲ったとしても大きな損はないと思えば、心にゆとりが生まれるはずだ。

③ 私は、笑顔で道を譲った。心が温まった。ちょっとした譲り合い、譲り合う気持ちを大切にしてみませんか。

自分のコメント【P1】を踏まえ、削除。

自分のコメント【P1】を踏まえ、追加。

友達からのコメント【P3, 4】を踏まえ、修正。

コメント【P1】: いきなり自分の考えが書いてあるので、この考えに賛成しない人は、読むのをやめてしまうかもしれない。最初は自分が体験した出来事から書き始め、物語のように話を進めることで、分かりやすく自分の考えを伝えられるようにしたい。

コメント【P2】: 誰の言葉? (山田)

コメント【P3】: 誰から? (佐藤)

コメント【P4】: 誰から教えてもらったのかが分からないので、学校の先生から教えてもらったと書く。先生に確認して、正確に紹介することで説得力を高めたい。

- コメントに書かれた内容を踏まえ、自分の文章を改めて読み直し、自分の考えがよりよく伝わる文章になるよう適切に修正するよう指導することが大切である。
- コメントに書かれた指摘について、その適否を吟味し、適切に反映させることも併せて指導することも必要である(コメントに書かれた指摘が必ずしも妥当であるとは限らない)。
- 教師も一緒にコメントに参加したり、回収後、フィードバックにコメント機能を活用したりすることも考えられる。

- 学習過程に即した各時間に書いた文章(学習の状況)を保存させておくことで、教師は、生徒一人一人について、学習の状況を時系列で確認することが容易になる。
- 自分が書いた文章を各自の端末に保存(長期的に蓄積)していくことで、生徒は、例えば、「今まで書いてきた意見文では、どのような点に課題が見えたか」「今回の意見文では、どこに注意して書くとよいか」などについて、長いスパンで学習を振り返ったり、当該単元について具体的な見通しをもったりすることができる。

- 1 . 学習指導要領上の位置付けとICT活用のイメージ(例)
- 2 . ICTを活用した授業事例
 - ・「一人一台端末」活用事例
 - ・その他の活用事例
- 3 . 臨時休業期間中のICT活用事例

事例によっては、実際の事例を基に、内容を一部簡略化したり、応用として考えられる内容を加えたりしている。
また、写真については、事例とは異なる指導事項の授業等のものをイメージとして掲載しているものもある。

その他の活用事例 (話すこと・聞くこと)

小学校 第5学年及び第6学年 「A話すこと・聞くこと」

ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

活用の場面

提案の練習をお互いに見たり聞いたりする活動を通して、提案する物の魅力が相手に伝わるように表現の工夫を考える。

ICT活用例

- ・タブレット型端末等を使って、班員同士で提案の練習の様子を撮影し合い、その動画を実際に見ながら、互いの提案の中での実物の提示や実演の仕方の良さや課題等を伝え合う。
- ・動画を使って、各個人で振り返ったり、教師が全体指導の材料として活用したりする。

単元の導入として、関連する以前の単元(前学年までのものを含む。)での自身の動画を見ながら振り返り、表現の工夫を考えることも考えられる。



自分たちで作ったおもちゃの魅力が伝わるよう、実物を使って提案する練習の様子

その他の活用事例（書くこと）

小学校 第5学年及び第6学年 「B書くこと」

エ 引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

活用の場面

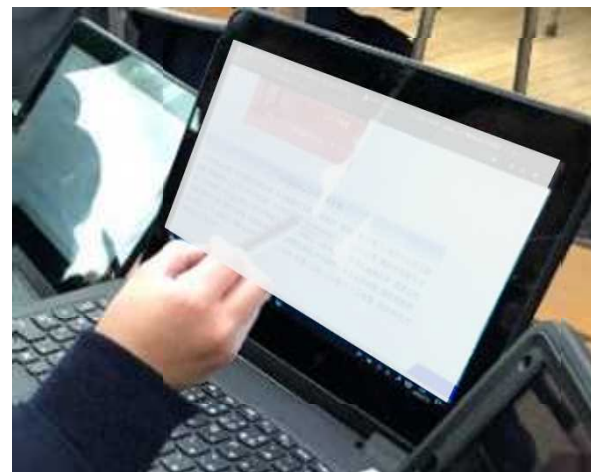
身近な題材から決めたテーマを基に，読み手が納得するように引用したり，データを加えたりしながら，意見文を書く。

ICT活用例

- ・インターネットを活用するなどして集めた，関連する情報を用いて，意見文を書く。

国語科の学習であることに鑑み，図表やグラフを作成する活動に過度に偏らないよう留意しつつ，表計算ソフトを活用して身近なデータを基にグラフをつくること等も考えられる。

- ・単元の途中で，学級の中で工夫が見られる例を紹介しながら，教師が全体指導する。



インターネットを活用して関連する情報を集めている様子

その他の活用事例（読むこと）

小学校 第3学年及び第4学年 「C読むこと」

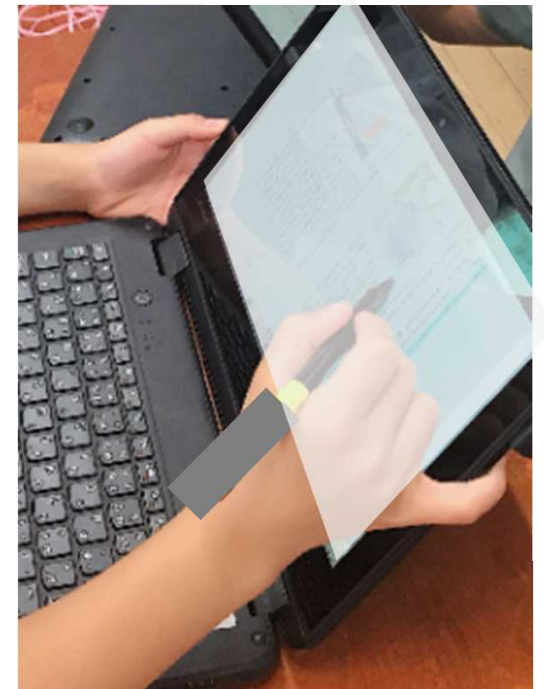
ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。

活用の場面

○説明的な文章を読み、要約に必要な語や文を見付ける。

ICT活用例

- ・タブレット型端末等を活用し、全文を一覧できるようにした説明的な文章について、内容の中心だと考えた語や文に画面上でマーカーを引き、文章全体の中で自分が選んだものの場所を確認する。また、自分が選んだものと、友達が選んだものとの相違点や共通点を視覚的に捉える。
- ・それらの語や文を選んだ理由について、友達と交流し、自分がマーカーを引いたものを再検討し、必要に応じて、画面上でマーカーを引き直す。



画面上で説明的な文章にマーカーを引いている様子

その他の活用事例（話すこと・聞くこと）

高等学校 国語総合 「A話すこと・聞くこと」

エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

<活用の場面>

グループの話合いや各自の発表の様子について自己評価や相互評価を行い、改善点などを共有する。

ICT活用例

- ・タブレット型端末等を用いて活動の様子を録画し共有フォルダに保存する。各自がその映像を確認し相互にコメントを付したり、クラウド上で意見交流したりしながら、その結果を共有する。
- ・改善に向けてグループ全体でまとめた発表原稿をクラウド上で共有する。



クラウド上の発表原稿等を閲覧している様子

その他の活用事例 (書くこと)

高等学校 国語表現

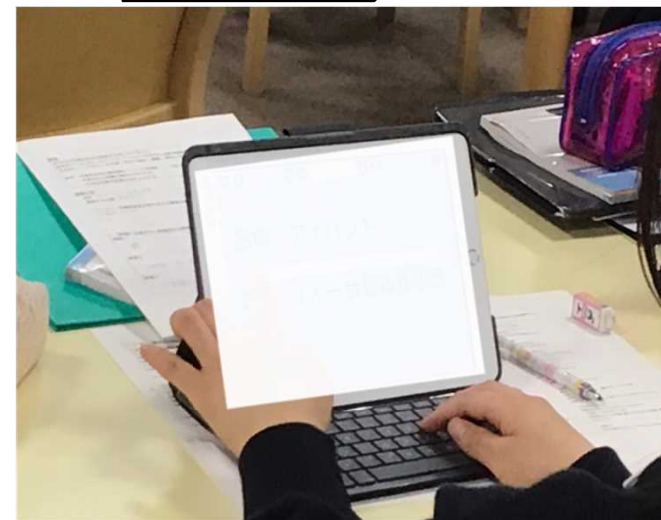
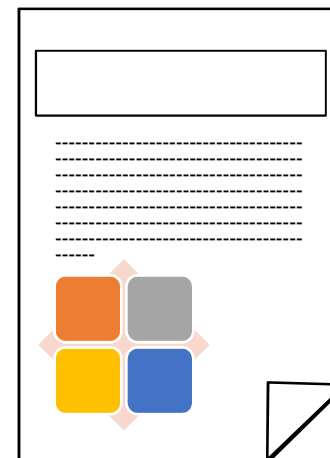
ウ 主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写の仕方などを工夫して書くこと。

活用の場面

卒業記念品などの企画について、各自でその条件や観点を考え、論理の構成を工夫しながら提案書を作成する。

ICT活用例

- ・タブレット型端末等のシンキングツールを用いて各自が考えた意見をグループ共有機能によって交流し、データチャートにまとめる。また、家庭で各自が内容を検討し端末等や手書きで具体案をまとめた後、クラウドに提出し、授業で画面共有しながら改善点などについて交流する。



タブレット型端末等で提案書を作成している様子

その他の活用事例 (読むこと)

高等学校 古典B

ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

活用の場面

古典を読んで、紀行文の中で登場人物が旅した経路など、各自が関心をもった様々な情報を調べることにより、作品の世界を具体的に想像させ、古典への興味・関心を喚起する。

ICT活用例

- ・文章を読んで関心をもったテーマを自ら設定し、タブレット端末等を用いて様々な情報を収集し、文章中の出来事や人物の言動の意味や背景などを考察する。また、最終的にまとめた意見文や振り返りを生徒が共有フォルダに提出し、共有する。



タブレット端末を用いて、古典の中の登場人物が旅した経路や立ち寄った名所旧跡について調べている様子

- 1 . 学習指導要領上の位置付けとICT活用のイメージ(例)
- 2 . ICTを活用した授業事例
 - ・「一人一台端末」活用事例
 - ・その他の活用事例
- 3 . 臨時休業期間中のICT活用事例

事例によっては、実際の事例を基に、内容を一部簡略化したり、応用として考えられる内容を加えたりしている。
また、写真については、事例とは異なる指導事項の授業等のものをイメージとして掲載しているものもある。

臨時休業中のICT活用事例 (小学校 低学年)

- ・この小学校では、クラウド上に学級毎の共有スペースがあり、授業等で活用してきた。
- ・本活用事例では、児童は、クラウド上に投稿された教師の動画を見て、提示された学習課題に沿って、教科書やノートを使って学習して、書いたものをタブレット端末等で写真に撮って投稿した。
(クラウドに児童が学校外からアクセスできるよう、手順を示したプリントを臨時休業前に各家庭に配付するなど配慮。)

単元「春をかんじたときのことをつたえよう」

(第2学年・2時間)

< 教師の指導・働きかけ >

- ・学習課題を提示する動画をクラウド上に投稿。
(動画は、教科書に出てくる言葉や詩を声に出して一緒に読む流れで作成。)
- ・ヒントになるような写真や画像を動画上で紹介したり添付したりする。

どんなものを見たり聞いたりしたときに春をかんじましたか。...

- ・児童が書いた言葉をまとめて紹介したり、学習課題を提示したりする動画を投稿する。

書いたことばをつかって、春をかんじたときについてみんなでつたえ合いましょう。...

学校再開後、ノートに書いた文を交流させるとともに、ノートを回収して、学習課題に沿って評価する。

小学校 第1学年及び第2学年 「B書くこと」

ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。

< 児童の学習活動 >

- ・動画の中の教師とともに、言葉を復唱したり詩を音読したりする。
- ・動画を視聴後、児童自身が春を感じたときに見たり聞いたりしたものをノートに書き出す。
- ・ノートを写真に撮ってクラウド上に投稿する。

- ・教師がまとめた資料を見て、友達が書いた言葉で気になったものを、ノートに書き加える。
- ・書いた言葉を使って、児童自身が春を感じたときのことをノートに文を書く。(絵を添えることも考えられる。)

臨時休業中のICT活用事例 (小学校 高学年)

・本活用事例では、児童は、クラウドに投稿された学習課題に沿って、教科書を使って取り組み、クラウドに自分の考え等を投稿した。

(クラウドに児童が学校外からアクセスできるよう、手順を示したプリントを臨時休業前に各家庭に配付するなど配慮。)

小学校 第5学年及び第6学年 「C読むこと」

イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。

学習の場面

文学的な文章(物語)を読んで、登場人物の関係や心情の変化に着目して、自分が感じたことや考えたことを書く。

<画面イメージ>

The screenshot shows a classroom communication app interface. On the left is a vertical menu with categories: 5年2組, 国語, 社会, 算数, 理科, 音楽, 図画工作, 家庭, 体育, 外国語, 道徳, and お知らせ. The main content area displays a lesson plan for '国語' with a red instruction: 「登場人物の関係や心情の変化に着目して物語を読み、感じたことや考えたことを書こう。」. Below this are three student posts: 相原 (13:21) says '...だと思いました。', 相原 (19:30) says '●ページの●行目の×××の返事を読んで、...だと思いました。', and 山田 (13:54) says '~~~~だと考えました。'. A teacher's post from 鈴木先生 (15:25) asks '×××がそう考えるようになったきっかけは何だと思いますか。'. At the bottom, another teacher post from 鈴木先生 (15:30) says 'どこを根拠にして考えたのかを書いていない人は、教科書のページ数と行数を明記して具体的な箇所を追記してください。'. The interface is decorated with wavy lines at the bottom.

学習課題に沿って児童が自分の考えを投稿

教師の追加の指導を踏まえて、再投稿

教師は、児童が書いた内容を踏まえて、個別に、あるいは全体に対して指導

臨時休業期間中のICT活用事例 (中学校)

■ B中学校(各家庭にある機器等も活用し,一人一台を確保)国語科の取組

本校国語科では,Web会議ツールと動画,見逃し配信等を活用し,Web会議ツールにおけるチャット機能や,学年ごとの専用メールアドレスを開設しての生徒とのやりとりなど,目的に応じてICTの機能を効果的に使い分けて授業を進めた。ワークシート類は,紙媒体で配布,回収している。

「書くこと」
の学習過程

題材の設定

情報の収集

内容の検討

構成の検討

考えの形成

記述

推敲

共有

単元「言葉で残そう,わたしの思い～表現の効果を
考えながら短歌をつくる～」(第2学年・3時間)

- Web会議ツール(約15分)でスライドを提示しながら,学習のねらいや進め方,ワークシートの内容(配布済)等を説明し,学習の見通しをもつ。
- 教科書や便覧等,短歌の選評などを用いて,短歌の特徴を確認し,今,伝えたい題材を考える。
- 短歌を複数創作する。(主として家庭学習)
- 複数創作した中から一首を選び,動画(約10分)を参考にしながら,短歌を推敲する。
 - YouTubeで限定配信する。
 - 教師は,学校で設定したメールを使って,推敲の相談を受ける。
- 短歌を完成させる。
- Web会議ツールの個別ルームを使って自動的に四人グループに分け,オンライン歌会(作成した短歌の紹介)を開く。
- 友達の短歌を読んで感じたことや考えたことをビデオ通話で交流する。
- 必要に応じて,短歌を再度推敲し,提出する。

中学校 第2学年「B書くこと」
ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり,表現の効果を考えて描写したりするなど,自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

- 質問は,挙手やアイコンで行う。
- Web会議ツールに入れなかった生徒用に,「見逃し配信」や「見逃しpdf」を行う。

「見逃しpdf」って?

オンライン授業に参加できなかった人に向けて,授業の要点をpdfにまとめたものです。

参加できなかった人はもちろん,もう一度授業の内容を確かめたい人もぜひ活用してください。

手元に,教科書・ワークシート集・便覧を用意して学習を進めましょう。



- 文章作成ソフト等を用いると,推敲の過程などが一層把握しやすくなる。
- 授業支援ソフト等を用いると,教師の助言や提出等,やりとりがしやすくなる。

(単元終了時)完成した短歌と,短歌作成時までに使用したワークシートを提出。

* 吹き出し内は,ICTに係る補足の説明等。